

◆巻頭言 皮膚科 診療科長 永田 茂樹

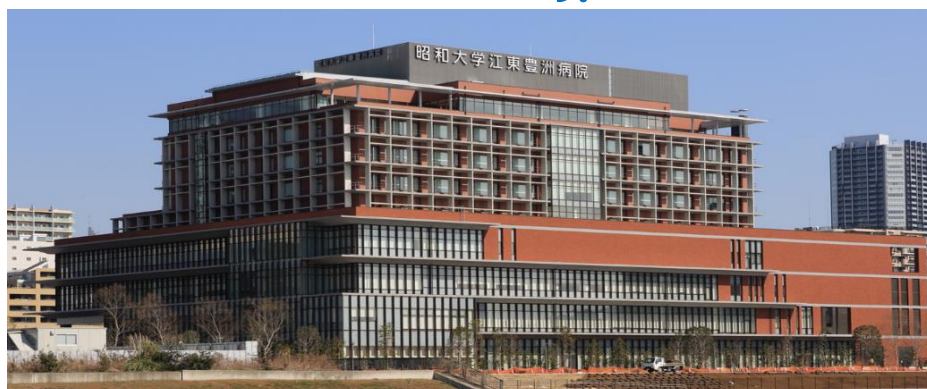
各地より紅葉便りに交じり、初冠雪の知らせが届く、霜月のころ、お肌には厳しい季節になりましたが、いかがお過ごしでしょうか。今月の巻頭言は皮膚科が担当いたします。当科は現在、医師4名で外来・入院診療を行っています。皮膚科疾患は接触皮膚炎(かぶれ)やアトピー性皮膚炎などの湿疹・皮膚炎群、蕁麻疹、乾癬(かんせん)、脱毛症からざ瘡(にきび)、蜂窩織炎(ほうかしきえん)等の細菌感染、带状疱疹、水痘、麻疹、風疹、手足口病、尋常性疣贅(ゆうぜい)等のウィルス性疾患、水虫などの足白癬(あしはくせん)皮膚の糸状菌症といった感染症、さらに、薬疹、熱傷(やけど)、血管炎や膠原病などの全身疾患関連皮膚障害、皮膚腫瘍まで多岐に渡りますので医師4人がそれぞれの専門性を生かして診療に当たります。当院は生物学的製剤承認施設ですので、モデルさんの件でマスコミを賑わせた乾癬(かんせん)の治療にすべての生物学的製剤での治療が可能です。尋常性乾癬、掌蹠膿疱症(しょうせきのうほうしょう)、白斑、アトピー性皮膚炎に対してエキシマ光線療法を行っています。



また当科は、昭和大学全体で取り組んでいる「チーム医療」を実践しており、形成外科、リハビリテーション科、薬剤師、管理栄養士、日本看護協会や各学会より認定された慢性疾患看護専門看護師、糖尿病認定看護師、皮膚・排泄ケア認定看護師、フットケア指導士、ストーマ認定士、義肢装具士と創傷治療チームを作り、下腿皮膚潰瘍(かたいひふかいよう)や褥瘡(持続的な圧迫によって組織の壊死が起こった状態)、ストーマや経管栄養部周囲の皮膚障害の治療に当たっています。このチームの特徴を生かし、今年度より専門外来として足外来を開設し、足の様々なトラブルに対応しています。



以上の専門性を生かした治療も含め当科受診を希望される場合は紹介を受け、当科の初診を予約されて来院していただければ幸いです。初診担当医が診断したうえで、それぞれの皮膚疾患に対応する専門外来での治療をご提案させていただきます。当院は2017年8月29日より地域医療支援病院の指定を受けました。当科としてもこれまで以上に Activity of daily living、quality of life を重視し、在宅医療も含め、各方面の医療機関、医療関係者と連携・協力し、life style に応じた、患者さん中心の医療を心がけていきます。



昭和大学江東豊洲病院

第43号のピックアップ

- 巻頭言 皮膚科 永田 茂樹
- 栄養科紹介
- 有明中学校職場体験
- 物品管理室紹介
- 編集後記

◆栄養科紹介 栄養科 係長 鴨志田 恭子

栄養科は地下1階 患者用エレベーターを降りた、家族控室の隣にあります。

栄養科の業務は大きく分けて2つあり、1つは栄養管理業務です。栄養指導は入院・外来・集団(糖尿病、両親学級)、不定期ですが、昭和大学豊洲クリニックで特定保健指導の対象者にメタボの栄養指導も行っています。個人指導は平日だけでなく土曜日、日曜日も行っています。食種は糖尿病、脂質異常症、肥満、腎臓病等の慢性疾患をはじめ、乳児・小児の成長不良、ガン・低栄養・摂食嚥下等々多岐に渡ります。当然のことながら、必要な患者さんとは継続的に指導を行い、多い患者さんでは30回を超える方もいます。

その他に、入院された患者さんの栄養管理計画書を作成しています。看護師が身体測定を行い、食生活の状況をシートに記載したものを参考に、必要栄養量を算出し、医師が指示した食事内容が適切であるかを確認します。過不足がある場合は、指示栄養量の変更を提案しています。

また、月曜日は口腔ケアラウンド、金曜日は褥瘡とNST(栄養サポートチームの略)の回診に参加し、不定期で食事摂取量不良の嗜好調査、嚥下の評価でVF(バリウムの入った食物を食べ、飲み込みの過程や状態を正確に評価する検査)・VE(内視鏡を用いて行う嚥下機能検査)にも立ち会い、栄養に関する症例に関わっています。

2つ目は給食管理業務です。適切な栄養量が患者さんに提供されているかを献立表と検食でチェックします。当院は事前に作りチルド状態で保存していた料理を盛り付け、再加熱カートという配膳車で100℃ 40分 70℃ 20分加熱後配膳します。「温かい物は温かく、冷たい物は冷たく」提供でき、煮込み料理は味が馴染んで薄味でもとてもおいしく食べることができます。年4回昭和大学附属病院で、同一の設問で患者満足度調査を実施していますが、全体の満足度は「満足」「やや満足」で85%以下になることはありません。この結果に驕ることなく、さらに良い食事提供ができればと思っています。患者さんに限らず、ご自身・ご家族で栄養についてお困りのことがありましたら、遠慮なくお尋ねください。



手前中央 鴨志田 恭子





◆有明中学校職場体験

看護次長 中村 綾子



2017年9月12日から14日までの3日間、江東区立有明中学校の2年生4名が当院で職場体験学習を行いました。救急病棟における看護体験のほか、手術室、薬局、放射線室、臨床工学室などの見学を行いました。

最初は緊張気味でしたが、お互いの初めての白衣姿をみて笑顔が見られるようになりました。中学生のリクエストにより追加された手術室の見学では、麻酔科医に「麻酔が覚めてしまうことはないのですか?」「この機械は何ですか?」などの質問がたくさん寄せられました。一人一人が疑問に思ったことを積極的に質問する姿を頼もしく感じるとともに、医療に強い関心を持ってきていることを嬉しく思いました。

また、昼食時の病院食の試食も、「バランスが取れていておいしい」との感想を聞かせてくれました。

看護師の仕事体験では、看護師とともに患者さんの検温などを行ったり、薬剤の投与を見学したりしたほか、お互いの血圧を測ったりしました。



有明中学校の生徒さん

9月末、有明中学から丁寧な文字で書かれた4通の手紙が届きました。その中には「実際に仕事を体験してみても大変さが分かりました」「病院の一日の流れは患者さんのためにとっても工夫されていました」「看護師になりたいと思いました」「病院がどれだけ多くの人で運営されているか、陰で支えている人がどれだけいるか分かりました」などのメッセージがあり、病院で働く私たちの励みになりました。

最後になりますが、中学生の職場体験学習の受け入れに際しましては、患者さんからも温かな声をかけていただきました。ご協力を頂き、本当にありがとうございました。

◆物品管理室紹介 酒井 一憲

私たちは、昭和大学江東豊洲病院・昭和大学豊洲クリニックにて、医療材料・医薬品の管理及び搬送業務を中心に、様々な物品の管理を行っています。

この業務は SPD(Supply (供給) Processing (加工) Distribution (分配))と呼ばれるシステムで、これにより医療に従事する皆様が、物品の管理作業に充てていた時間を、本来の医療業務に専念して頂けるようにするためのものです。

院内における主な業務は、医療材料・医薬品の数量や期限の管理、補充・搬送業務、臨時請求に対する発注・納品、医療機器の修理や新規購入の対応、事務用品の発注・納品、宅配便の受け取り窓口業務などです。

私たちは日々の業務の中で、「安定した診療業務を行うためのサポート」を心がけています。各部署の物品の必要数量を正しく供給するだけでなく、必要な時に必要な物品の準備をし、迅速に各部署へお届け出来るよう、日々業務に当たっています。

物品管理スタッフ一同、皆様にとって頼れる存在となれるよう、日々努力してまいります。

今後ともどうぞよろしくお願い致します。



編集後記 薬局 門馬 恵

2017 年度も折り返し、下半期 2 カ月目となりました。薬剤師は 1 年間のレジデント制度を設けており、半年交代で当院と昭和大学病院、又は昭和大学横浜市北部病院と昭和大学藤が丘病院で研修します。

今年度は 10 月に 10 名が当院から昭和大学病院へ、昭和大学病院から 12 名のレジデントを迎えました。当薬局は 2015 年からレジデントの受け入れを始め、今回で丁度 50 名となりました。現在、職員は 17 名であり、レジデントの存在感や影響力はとても大きく感じます。出会いと別れの季節というと、一般的には春ですが、薬局では秋にも訪れます。

今年もなんとなくバタバタしてしまう薬局の秋でしたが、皆さんにとって今年の秋はどのような秋でしたか？本格的な寒さに向かう時節、皆さん体調を崩されませぬようご自愛ください。



昭和大学
SHOWA UNIVERSITY

昭和大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>

〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38

TEL03-6204-6000(代表)

発行責任者：笠間 毅 編集責任者：長谷川 真



昭和大学江東豊洲病院
Facebook ページ



Showa University Koto Toyosu Hospital